

が必要であります。

子供の道具に名前

それから、幼児のお辨當とか手巾とか帽子とか其他
子供の持物へは、すべて名前をつけて置くことが、
最も幼稚園の方で望ましい事なので、夫が爲めに、
置き忘れとか紛失の場合などには、幼稚園の方で
も手数が省ければ、子供にとつても、まことに仕
合はせな事になります。

手巾は必ず持たせること

幼稚園へくる時許りではございません。子供には
始終手巾を前掛のポケットへ入れさせておく
か、帯へさげさせて置くかして、持たせてふきた
いのであります。殊に幼稚園の様な大勢集まる所
では、例令へ皮膚病等は、どれ程注意してゐるに
しても、便所などの共同の手拭はなるべく使はせ

ない様にしたいものですから、是非とも持たせて
置きたいのであります。

幼児への談話の仕方

和 田 實

前號には、女子高等師範學校で取調べられた、幼
児への、談話の種類や、其教育的價値に就て、有
益な説明がありました。が、それに就て、私の感じ
た事を少し書きたいと思ひます、殊に説話式を用
ひて、幼児に御話をなさるとき、話の仕方に就て、
思ひついた事を述べたいのです。

一 説話者の意氣 幼児は、社會心に動かさるゝ事
の、最も鋭いものです、殊に談話を聞く時などに、
其話す人の意氣が、沈んで居つたり、厭氣に見え
たり、などすると、もう直に、いやになつて、聞

かないものです、それですから、幼児を對手に話
す人は、半分は確に「子供になる」と云ふ心持が
肝心だと云はれて居る譯です。

二次には手振と身振とがよく話に釣合はなけれ
ばなりません、口に話して居る事と、手や身体の
動き方が、一致しませんと、傍で見て居ても不釣
合で見苦しいものです、例へば、口で「鼠がちよ
こくとかけて行つた」などと云ふ時に、下つて
居た手が急に空中を前方に飛出したり、鼠のある
きそうもない壁や黒板の面などへ、手首を走らせ
て鼠のかける様子を見せたりなどするのは、觀察
の鋭い子供の中には、間違を殘す種であります、
若し又鼠の走る所を實際に見た子供ならば、必ず
先生の鼠は妙な所を走るものだ」と思ふかも知れ
ません、何故と云ふに一体鼠と云ふものは、鴨居

の上や室の隅など、務めて縁を通るもので、暗き
室でもなければ、平面の眞中を安らに走るもの
ではありませんもの、此外、話に勢を付けやう
と思ふて、無暗に手や身体を鋭く動かして、子供
を刺戟し様とする人があります、之も有害だと
思ひます、例へば、「こんなに大きかつたのです」
と、兩手を廣げて見せるに、膝上の手が急に勢鋭
く左右に突出するなどです、こんな時には、其話
の性質上、當然持つて居る丈の勢があれば、子供は
大變快く感ずるものですのに、餘り勢のはげし
いために、話よりは眼の方へ驚奇的に注意を奪は
れて、肝心な「大」と云ふことの想像は、容易に
起らぬ事になります、一体子供への話は、一々想
像力を働かせて居るのですから悠然と落ち付かせ
なければ、充分には働きませんのに、不意な事を

して注意を亂してはいけません。又話して居ると、手や身体の動き方が、全く合はぬ事があります。話す人は自分が紳々として餘祐ありとでも、見せ様とするのですか、話以外勝手ないたづら見た様な事をして居る人があります、是も悪ひ御手本だと思ひます、丁度子供にいたづらと云ふものは斯う云ふ風に出来るものと云ふ手本を、示す様なものではありませんか。

三言語の迷度 上手な熟練した人が、子供に話をして居る所を見ると、言語がゆるやかにそろ／＼と出て来て、子供には、一語／＼悉く頭に入る様に見え、一語は一語と歴々と反應が、子供の顔色や眼付に表はれて来ます。然るに、此邊の具合のわからぬ人がするのを見ると大人や大きな子供に云ふ様な、早言葉ですから、話が駸々と進んで行

つて、涉は行きますが、其代り話した半分も、子供の腦裏に繰り返されず、従つて愉快を感じさせる事が出来ません、一体、談話の價値は、嘗て聞かれた事を、其儘再び腦中に繰返さるゝ所にあるので、心的諸作用を促進する上から云つても、言語の能を進める上から云つても一度耳から入つた事を、其まゝ、腦中に繰返すと云ふ事は、大層利益ある事です、且又子供は之を大變愉快に感ずるものです、此同一的復現が容易に行はるれば行はる程、愉快も一層であり、従つて教訓的効力も、深く染み込む澤です。例へば、舌切雀の話が、繰り返さるればさるゝ程、動物虐待の惡む可きことや、老翁の愛す可き温徳などが、深く染み込むと同時に、諸種の心力は練習を重ねて、其働き容易となり、其用語は暗記せらるゝ様になるのであり

ます、又談話の理解と云ふ方から云ひましても、言語は大きな人に話すより、餘程ゆつくりでよい譯です。何故と云ふに、一体子供には未だ概念と云ふものが、充分に出来上つて居りません、一つの名詞又動詞も多くは具體的のもので、馬とか牛とか云ふても、吾々ならば、直に其概念又は概念の符號なる文字などを、思ひ浮べて、夫れから夫れへと、速に思ひ廻らすことが、出来ませんが、子供は馬と云はれた時、先馬を具體的に考へて、自分の尤もよく記憶する實物を思ひ浮べて、待つて居るものです、次に牛と云はれると、同様な事をして居るのです。夫れに子供の意識と云ふものは、範圍の頗るせまいものですから、斯様に手おつくりな概念が、速に呼び起されては、入り込む餘地が、ありません。故に言語の速度をゆるめて、

五十六
 不必要な概念と新概念とが、新陳代謝するに、適當な時間と與へなければ、逆も話を理解することが、出来ません。

四言語の種類と其數 子供へ話をする人は「半分子供になれ」と云ふことの、他の一の理由は、言語の種類が、子供の範圍を脱してはならぬ事を戒めるのです。動もすると、大人は自分達の、平常用ゆる言語の數々を、無暗に遣ひますが、此云ふ事では、話の全体がたとへ悉く注入されたとして、逆も、容易に腦中に復現することは、出来ません。例へば「大きな人がありました」と云ふ可き處を、「雲衝く大きな人がありました」と云ひ、「きれいな大變きれいでした」と云へば、充分な處を、「其きれいなことは、筆にも言葉にもつくせないくらいです」などと、云ふものだから、却つて幼

兒には「大きい」とか「きれい」とか云ふ看念は、
 わからぬ不思議な形容詞のために、其意義を曖昧
 にされて、しまいます。そして遂には、話の全体
 が明瞭に把握されないで、極めて断片的になつて
 しまいます。さて斯様に言葉の種類に、氣を付け
 て、其子供相當の言葉のみを用ひて話す様にする
 と、言葉の敷は自然限られて來て、速言葉で澤山
 云ふ必要もなければ、忙がしいせわしい話振をし
 て、せかしくした風を見せる必要もないのです。

雜 報

在佐賀の知入より、左の募集廣告を贈りぬ。一年の計は元旦に
 在り、年の始に當りて貯金の勘の歌の想を練ると共に、其方法
 にも思なめぐらすに至らば、よし一等賞の金側時計を得る能は
 んにしても、今年一年の家政の上に確に損にはならざるべし、
 若し夫れ幸に選に當りたらんには、重ねくの利得ともなるべ
 しと云爾

(記 者)

懸賞募集廣告

- 一題、貯金の勸め歌
- 一文体 新体詩
- 一字数 貳百四十字以内
- 一締切期限 明治三十九年一月末日
- 一賞品
 - 一等 金側懷中時計 壹箇
 - 二等 銀側懷中時計 壹箇
 - 三等 据 時計 壹箇
- 一懸賞當撰の歌は斯道知名の士に作譜を請ひ唱歌
 として一般貯蓄思想涵養の資料に供すべし
- 一答案是肥前唐津郵便局内山村直太宛の事
 但答案接受の上は即時領收の證を發す
- 一當撰發表は締切期限より二ヶ月以内とす

明治卅八年十月廿三日

肥前唐津郵便局長 山村 直太